

# 稲作だより

第5号 本田初期編  
令和8年5月7日

やまがた温暖化対応米づくり日本一運動最上地域本部 最上総合支庁農業技術普及課 ☎0233-29-1330

育苗管理も終盤です！最後まで気を抜かずに適期移植につなげましょう。

## ※お天気ニュース※

平均気温は5/9～5/15で高く晴れが多い見込み、5/16～6/5で高い見込みです。また、日照時間・降水量は向こう1か月ほぼ平年並みです。好天日に移植が行えるように準備を進めましょう。(5/7 気象庁発表)

## ◎代かき ～あせらず、ゆっくり、丁寧に～

- ・代かきを過剰に行うと土壌の還元が強まり、苗の活着や根張りが悪くなり、初期生育量の不足に影響します。過剰にならないよう注意しましょう。
- ・代かき後から雑草発生が始まります。代かきから田植えまでの期間が長くなり過ぎないようにしましょう。

## ◎適期移植 ～天気の良い日を狙って～

- ・健苗を育てたら次は適期の移植です。移植日の極端な早晩は収量や品質に影響を与えます。左下表を参考にしましょう。移植が遅れると出穂、登熟が遅れ収量が減少する傾向にあります(右下表：つや姫チェックリストから)。

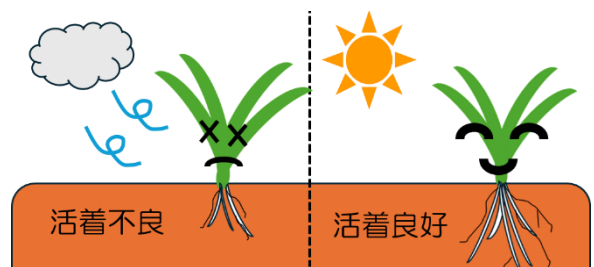
### <苗の種類と移植適期>

品種	移植適期	移植晩限
はえぬき	5/10～5/20	5/25まで
雪若丸		
つや姫	5/15前後	5/20まで

- ・活着を良好にするため移植は好天日に行いましょう。移植適期内でも、強風や低温時の移植は植え痛みや活着の遅れを起し、その後の分けつの発生を遅らせます。作業計画にゆとりを持たせましょう。

### <移植日と収量の違い(登熟不良年)>

移植日	収量(kg/10a)	
	H29	R4
～5/20	495	530
5/21～25	468	524
5/26～	433	504



## ◎移植時の機械設定 ～移植始めが肝心～

### 植付深

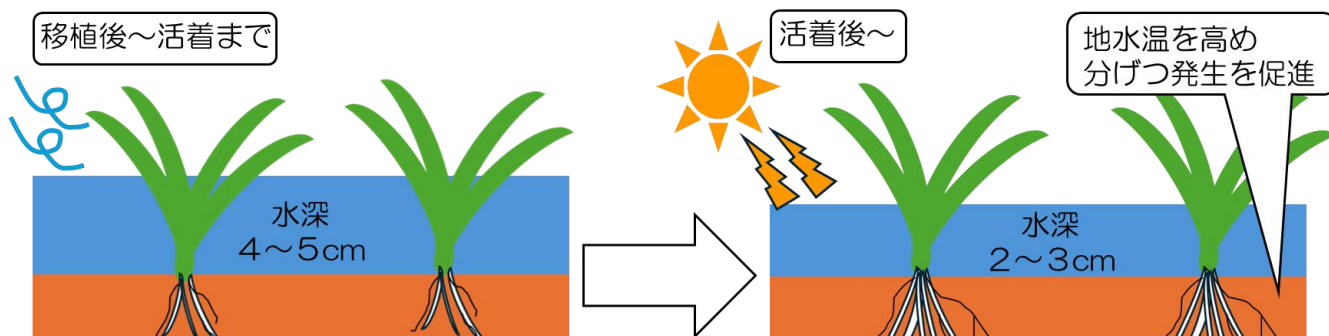
- ・3cm程度とし、深植え(5cm以上)は初期分けつを抑制するため避けましょう。

### 栽植密度

- ・70株/坪、植込本数4～5本/株、100本/m<sup>2</sup>を目安としましょう。栽植密度が低いと茎数や穂数が不足しやすく、穂重型の稲姿となり、気象変動による登熟不良や品質低下のリスクが高まります。

## ◎水管理 ～移植後1か月間が勝負！～

- 活着までは水深4～5cmの保温的管理で、活着後は2～3cmの浅水管理で地水温を高め、分げつの発生を促しましょう。また、日中止水・夜間かんがいで日較差を維持しましょう。
- 浅水管理時は田面が露出しないように、こまめな水管理を心掛けましょう。



## ◎取置き苗の撤去 ～いもち病防除はここから～

- **いもち病が本田で蔓延する主な原因は取置き苗からの感染です。** 補植に使用しない苗はただちに撤去しましょう。取置き苗をゼロにすることが葉いもちゼロ、穂いもちゼロに繋がります。今年も移植後1週間を目安に撤去しましょう。



取置き苗で発生したいもち病斑

## ◎雑草防除 ～除草剤の正しい使い方残草ゼロ～

- 除草剤の散布時は水口と水尻を止め、**7日間**は止水期間としましょう。漏水で田面が露出する場合は除草剤の処理層を壊さないようにゆっくり入水しましょう。
- 散布時の水深は除草剤の剤型によって異なります。粒剤、フロアブル剤、顆粒水和剤は3～5cm、ジャンボ剤、豆つぶ剤、250グラム粒剤は5cm以上としましょう。
- 表層剥離やアオミドロが発生している場合は除草効果が低下するため、いったん落水するか、降雨後で水面が落ち着いた状態で散布しましょう。
- 近年、ドローン等の無人航空機で散布できる除草剤が増えています。**周囲に障害物や人がいないか確認してから飛行させましょう。**また、ドリフトさせないように注意しましょう。

**STOP! 農作業事故**

～春季事故防止運動強化期間～ 4月1日～6月10日

**CHECK! 農薬ドリフト対策**

周囲の作物の確認や、強風時の散布は避けましょう!